言語活動の充実を通した
主体的に学習に取り組む児童の育成

国語科「読むこと」における深い学びへと導く授業モデル

ホーム

～はじめに～

クリックすると、該当ページに移動するよ！

低・中・高学年での
系統的な指導について

マークをクリック！

第２学年　読んだかんそうを伝え合おう
「お手紙」

第３学年　想ぞうしたことをつたえ合おう
「モチモチの木」

第５学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

発達の段階に応じた
ICTの活用方法

関連資料・参考文献等

～はじめに～

ホームへ

このデジタルパンフレットは、
国語科「読むこと」の学習において、
言語活動の充実を通して、
「主体的に対話しながら、
問いを見いだしたり、
問い直したりして、
自己の考えを広げ深める児童の育成」
を目指して作成したものです。

低・中・高学年の
発達の段階に応じた
系統的な指導法が
分かります！

マークを
クリック！

低学年

中学年

高学年

「協働的な学び」の成果を、
「個別最適な学び」に還元させ
るためのICT活用についても
紹介しています♪

✿関連資料・参考文献等（外部のデータ）に
アクセスできるリンクが貼ってありますが、
データ通信が必要となります。

低・中・高学年での系統的な指導について

ホームへ

ポイント①発達の段階に応じた課題設定・提示

低学年	中学年	高学年
全員で 話し合って 課題を決める	単元目標に即した 課題の提示 課題を自分で選ぶ	多面的な 見方・考え方を働かせ 課題を自分で設定する

ポイント②　対話が必然となる学習過程の工夫

【A：探究的な課題の設定】
「なぜ、○○なのか？」「○○したのは、どうしてか？」などの課題を設定する。

【B：学習計画作り】
課題に沿って、学習過程を行ったり来たりできる学習を行う。

【C：多様な情報収集方法】
本を読んだり、友達の考えを聞いたりして、課題の解決を目指す。

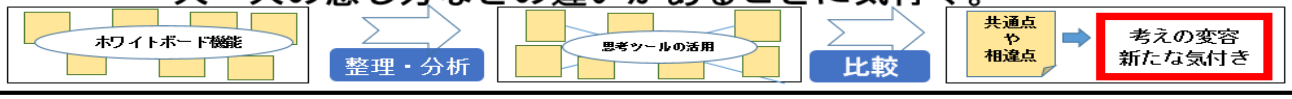
【D：他者との対話場面の設定】
他者の読み取りに関心を向け、対話を生み出す学習活動を設定する。

【E：多様な共有方法】
比較機能やキーワード検索を用いて、共有方法を選択できるようにする。

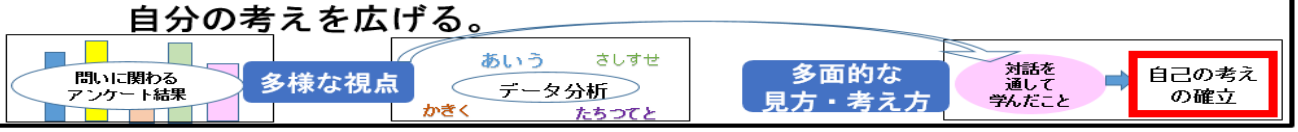
ポイント③　考えを広げ深めるＩＣＴ活用

低学年：文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。

中学年：文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などの違いがあることに気付く。



高学年：文章を読んでまとめた意見や感想を共有して、考えを吟味し、自分の考えを広げる。



第2学年　読んだかんそうを伝え合おう
「お手紙」

ホームへ

単元目標

物語の登場人物と自分を比較し、
物語を読んだ感想を深めることができる。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①文の中における主語と述語の関係に気付いている。 イ:言葉の特徴やきまりに関する事項 【(1)カ】	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 【C(1)エ】 ②「読むこと」において、文章の内容と自分の体験と結び付けて、感想をもっている。 【C(1)オ】	①これまで学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、進んで物語の人物の気持ちについて想像を広げ、物語を読んで感想をもとうとしている。

学習の系統性

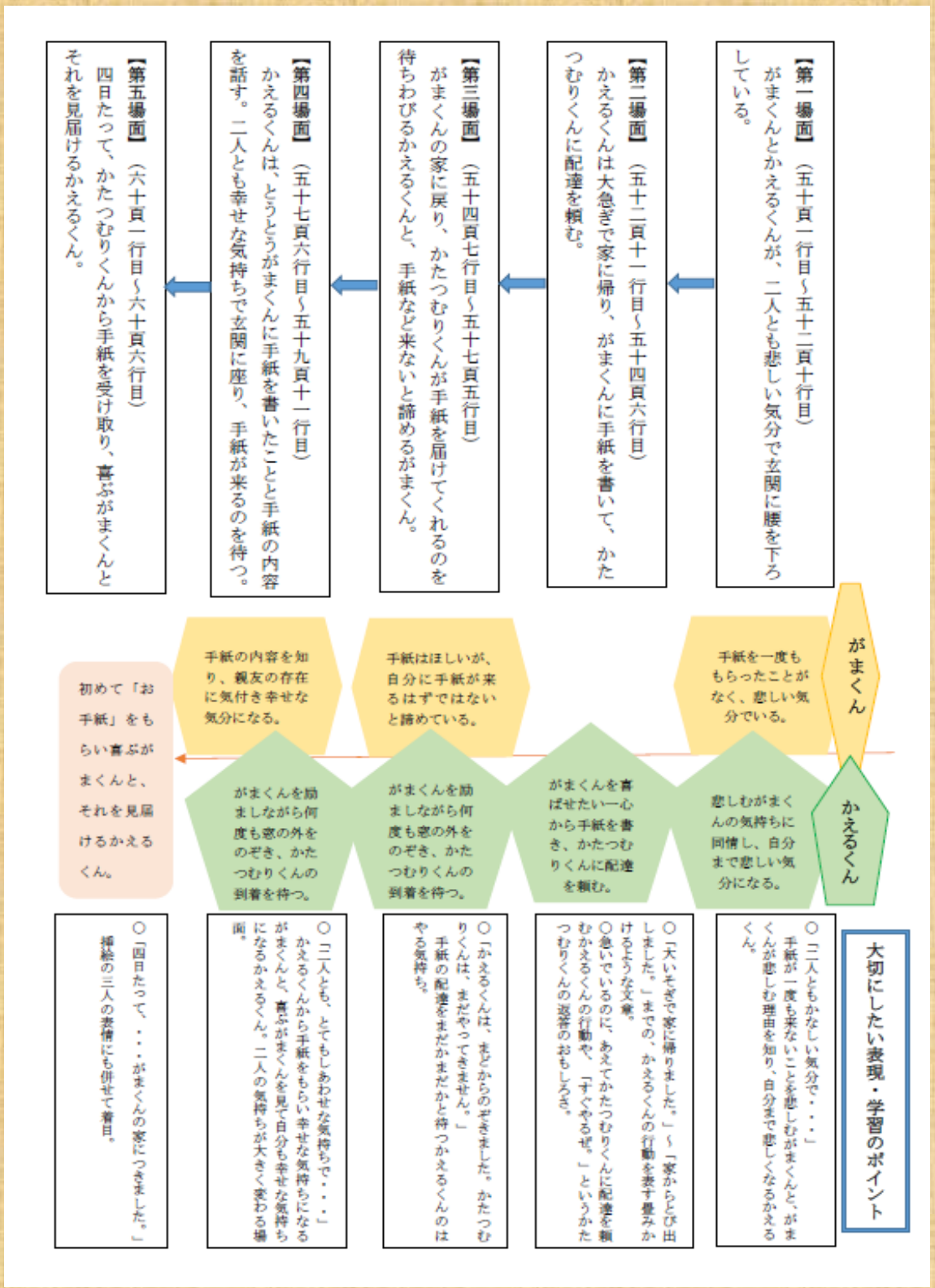
学習の系統性（【読むこと】指導事項イ・エ・オ・カ）※小学校学習指導要領解説（国語編 P. 38）

学年	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
教材	スイミー	お 手 紙	モチモチの木	ごんぎつね	注文の多い料理店	風切るつばさ
めあて	お話の好きなところを見付ける。	自分と比べて読む。	人物の性格を想像する。	人物どうしの関わりを考える。	人物像や全体像を想像する。	人物の関係と心情の変化を捉える。
構造と内容の把握	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。		登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。		登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	
精査・解釈	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。		登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。		人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	
考えの形成	文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。		文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。		文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	
共有	文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。		文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。		文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	

第2学年　読んだかんそうを伝え合おう
「お手紙」

ホームへ

教材「お手紙」構成図



第2学年　読んだかんそうを伝え合おう「お手紙」

ホームへ

系統的な指導の手だて

ポイント①　学習課題の適切な設定・提示

【全員で話し合って課題を決めるための工夫】

学習課題の適切な設定

・初発の感想を書く際には、「『お手紙』って～だな。なぜかというと・・・」「クラスで話し合いたいこと（考えたいこと）は・・・」という視点を提示し、全員で物語を読む問い（読みの問い）を立てられるようにする。

・場面ごとに二人の気持ちを考える際には、「なぜ、○○は○○なのだろうか。」や「○○とき、○○したのはどうしてだろうか。」というような探究的な問いを促すための視点を提示する。

学習課題の提示

・全員で決めた課題は、必ず目立つように板書し、声に出して言うなど全員で確かめるようにする。

ポイント②　対話が必然となる学習過程の工夫

【A：探究的な課題の設定】
「なぜ、○○なのか？」「○○したのは、どうしてか？」などの課題を設定する。

【B：学習計画作り】
場面ごとに読み進めるのではなく、課題に沿って、学習過程を行ったり来たりできる学習を行う。

【C：多様な情報収集方法】
本を読んだり、友達の考えを聞いたりして、課題の解決を目指す。

【D：他者との対話場面の設定】
他者の読み取りに関心を向け、対話を生み出す学習活動を設定する。

【E：多様な共有方法】
比較機能やキーワード検索を行ったりして、共有方法を変化させる。

ポイント③　考えを広げ深めるＩＣＴ活用

【考えを広げ深めるためのＩＣＴ活用の工夫】

発問の工夫

・協働学習ツールを活用して考えの共有を行う際には、自分の考えと似ている考えや異なる考えを確認するように指導し、自分と同じ考えや違う考えがあるか発問する。

ワークシートの工夫

・自分と同じ考えや異なる考えがあった際には、デジタル共有シートにある「いいねボタン」を押したり、感じたことをコメントに書いたりして、児童が思考したことが確認できるようにする。

・共有した友達の考えを、自分の考えに取り入れたことが把握できるようにするために、学習の振り返りの時間に感じたことや思ったことをまとめられるようにする。

第2学年　読んだかんそうを伝え合おう「お手紙」

ホームへ

指導計画・評価計画（例）
全11時間

時間	ねらい	○主な学習活動	口手だて 課…学習課題の適切な提示・設定 対…対話が必然となる単元計画の要素 ＩＣＴ…ＩＣＴの活用	評価方法 【評価規準】
1 2 第一次【つかむ】	1（指導例１） 学習の見通しをもち、学習課題を理解する。 2　登場人物・中心人物（一番気持ちが大きく変わった人物）を捉える。	○これまでに学習したり読んだりした物語を振り返る。 ○挿絵や題名から物語についての想像を広げる。 ○「お手紙」を読み、初発の感想を交流しながら、学習課題を立てる。 ○登場人物について整理し、中心人物は誰になるかを話し合う。	対　手紙を書いて送る習慣が薄れてきている昨今、授業者が担任に向けて書いた手紙を話題にして、手紙について語り合う。 課　初発の感想は、「『お手紙』って～だな。なぜかというと・・・」「クラスで話し合いたいこと（考えたいこと）は・・・」の形で書き、登場人物の言動に対する問いを生むようにする。 ＩＣＴ　中心人物だと思う人を選び、理由を書いて共有し合う。	【主】 発言 行動観察 ワークシート
	【学習課題】がまくんとかえるくんはお手紙を待つ間、どんな気持ちだったか。			
3 4 5 6 7 8 9 第二次【取り組む】	3・4 １～５場面の様子を理解する。 5・6（指導例２） 場面の様子に着目し、二人の行動を具体的に想像する。 7　３場面の二人の気持ちを想像し、感想をもつ。 8　４場面の二人の気持ちを想像し、感想をもつ。 9（指導例３） ５場面の二人の気持ちを想像し、感想をもつ。	○挿絵を見ながら、「がまくん」の気持ちと「かえるくん」の気持ちが一番大きく変わった場面について話し合う。 ○場面ごとに「がまくん」と「かえるくん」の気持ちを心の明暗スケールに表し、「明るい」「暗い」を10段階で判断し、根拠を書く。 ○「かえるくん」は、「がまくん」にお手紙を書いたことを言わない方がよかったかについて、話し合う。	対　「教材との対話」「自己との対話」「他者との対話」を機能・連携させることで主体的・対話的で深い学びを実現する。 課　場面ごとに二人の気持ちを考える際には、探究的な問いになるように課題を設定・提示する。 ＩＣＴ　「明暗スケール」を表現する際には、「がまくん」と「かえるくん」の心の明るさを解釈し、場面ごとの移り変わりをイメージに合う色で表現できるようにする。	【知・技】 ・(1)カ 行動観察 ワークシート 【思・判・表】 ・C(1)エ ワークシート ・C(1)オ 行動観察 ワークシート 【主】 発言 行動観察 ワークシート
10 11 第三次【振り返る】	10　「かえるくん」へのお手紙を書く。 11　「かえるくん」へのお手紙を読み合って、感想を伝える。	○３場面で「がまくん」にお手紙が来ることを信じてもらえなかった「かえるくん」の気持ちを受け止め、かえるくんに対してお手紙を書く。 ○書いたお手紙を読み合って、感想を共有する。	課　自分の友達として、「かえるくん」にお手紙を書くことで、自分の経験と結び付けて考えることができる。 ＩＣＴ　共有後振り返り、自分の考えと比べて感想をもてるようにする。	【主】 発言 行動観察 ワークシート

第2学年　読んだかんそうを伝え合おう
「お手紙」

ホームへ

全11時間
1/11時間目（指導例1）

<本時の目標>
これまでに読んだ物語を振り返り、学習課題を明確にすることができる。

課題設定
・課題を明確にする。

全員で話し合って
課題を決める

課題
「お手紙」を読んで、がまくんとかえるくんのやりとりから、どのようなことをクラスで考えたいか？

手だて甲（探究的な課題設定）
がまくんとかえるくんの言動に着目した探究的な問いを立て、みんなで確かめる。

学習過程①
構造と内容の理解
・既習の振り返りをする
・初発の感想を共有する。

学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・言動に着目する。

評価規準【主】
これまで読んだ物語を振り返り、学習課題を明確にしようとしている。
（発言・行動観察・ワークシート）

手だて乙（多様な情報収集）
既習の教材、本教材、友達の考えを集めながら、クラスで考えたいことをまとめる。

学習過程③
考えの形成
・既習とのつながりを理解する。
・自己の問いをもつ。

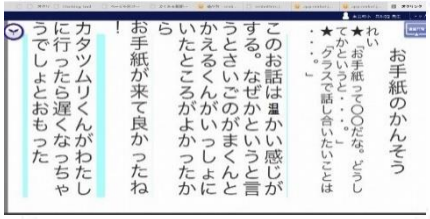
問いを見いだす
問い直す

集まった情報を
整理・分析

学習過程④
共有
・問いを共有する。
・他者との考えの違いに気付く。

自己の考えを
まとめる

手だてICT（多様な共有方法）
クラスで考えたいことを共有した後に、友達の考えを聞いて分かったことをまとめる。



振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

自己の考えを
広げ深める

第2学年　読んだかんそうを伝え合おう
「お手紙」

ホームへ

全11時間
6/11時間目（指導例2）

〈本時の目標〉
場面の様子に着目して、二人の行動を具体的に想像することができる。

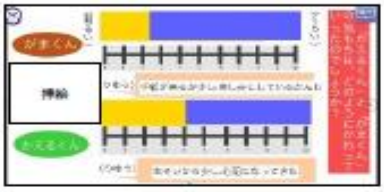
課題設定
・課題を明確にする。

全員で話し合って課題を決める

手だて[探]（探究的な課題設定）
がまくんとかえるくんの心の変化を読む探究的な問いを立て、みんなで確かめる。

学習過程①
構造と内容の理解
・場面の確認をする。
・気持ちの変化を読み取る。

課題
「がまくん」と「かえるくん」の心の明るさは、どのようにかわっていったのだろうか？



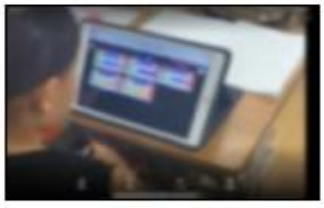
学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・言動に着目する。

評価規準【思・判・表】C(1)エ
場面の様子に着目して、二人の行動を具体的に想像している。
（行動観察・ワークシート）

手だて[対]（他者との対話場面）
読み取った心の変化について対話することで、自己の考えを確かめていく。

学習過程③
考えの形成
・二人の心の変化を読む。
・自己の考えをもつ。

問いを見いだす問い直す



集まった情報を整理・分析

学習過程④
共有
・考えを共有する。
・他者との考えの違いに気付く。

自己の考えをまとめる

手だて[ICT]（多様な共有方法）
二人の心の変化を共有した後に、友達の考えから分かったことをまとめる。

振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

自己の考えを広げ深める

第2学年　読んだかんそうを伝え合おう
「お手紙」

ホームへ

全11時間
9/11時間目（指導例3）

〈本時の目標〉
二人の気持ちを想像し、自分の体験と結び付けて、感想をもつことができる。

課題設定
・課題を明確にする。

全員で話し合って課題を決める

手だて[探]（探究的な課題設定）
がまくんとかえるくんの気持ちを読む探究的な問いを立て、みんなで確かめる。

課題
手紙を待つ間、「がまくん」と「かえるくん」は、どのような気持ちだったか。

学習過程①
構造と内容の理解
・場面の確認をする。
・5場面の気持ちを読み取る。

学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・言動に着目する。

評価規準【思・判・表】C(1)オ
二人の気持ちを想像し、自分の体験と結び付けて、感想をもっている。
（行動観察・ワークシート）

手だて[対]（他者との対話場面）
読み取った気持ちについて対話することで、自己の考えを確かめていく。

問いを見いだす問い直す

学習過程③
考えの形成
・二人の気持ちを読む。
・自己の考えをもつ。

集まった情報を整理・分析

手だて[ICT]（多様な共有方法）
二人の気持ちを共有した後に、友達の考えから分かったことをまとめる。

学習過程④
共有
・考えを共有する。
・他者との考えの違いに気付く。

自己の考えをまとめる

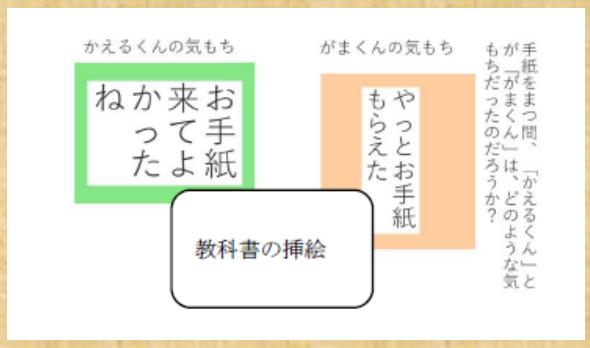
振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

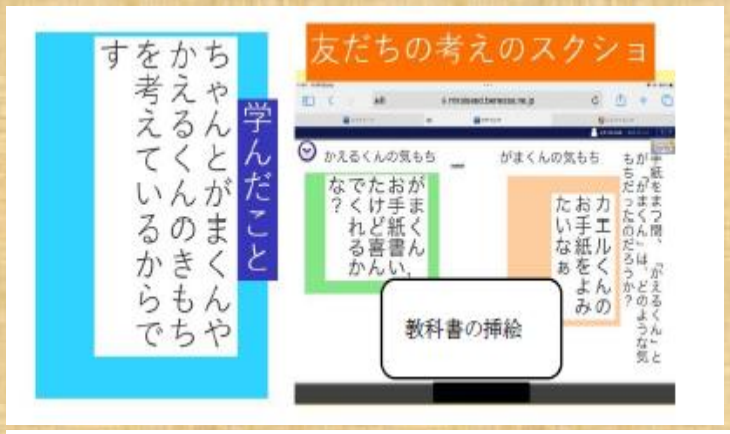
自己の考えを広げ深める

第2学年　読んだかんそうを伝え合おう「お手紙」

ホームへ

児童の姿





「お手紙」の学習で、お友だちと考えを見合って、気づいたことがあれば、くわしくおしえてください。

みんな、ちがう考え方だからこそ、おもしろいのだなと、思いました。そして、人間っぽいんだなと、思いました。これからも、いけんをいっぱいだしたいなと、思っています。

友だちといろいろ話をしてかんがえていろんなかんがえがあるんだなっておもいました。

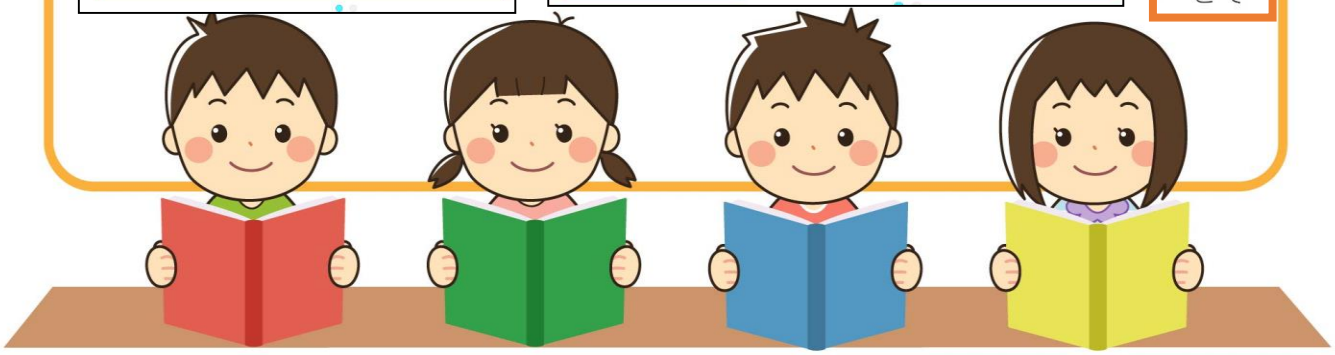
お手紙の学習ですすんでできたことは、どんなことですか？

ガマくんの気持ちや，かえるくんの気持ちをよく考えることができた。

自分がガマくんとカエルくんになり切って音読した（授業を受けた。）

こころメーターを調整しながら受けた。

友だちと考えがちがくても、りゆうをせつ明ができるようになった。



第3学年　想ぞうしたことをつたえ合おう
「モチモチの木」

ホームへ

単元目標

物語を読んで中心人物の性格を想像して、
感じたことや考えたことを共有することができる。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使っている。 イ：言葉の特徴やきまりに関する事項 【(1)オ】	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 【C(1)エ】 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想をもっている。 【C(1)オ】	①学習の見通しをもって、文章を読んで理解したことに基づいて感想をもち、考えたことなどを伝え合おうとしている。

学習の系統性

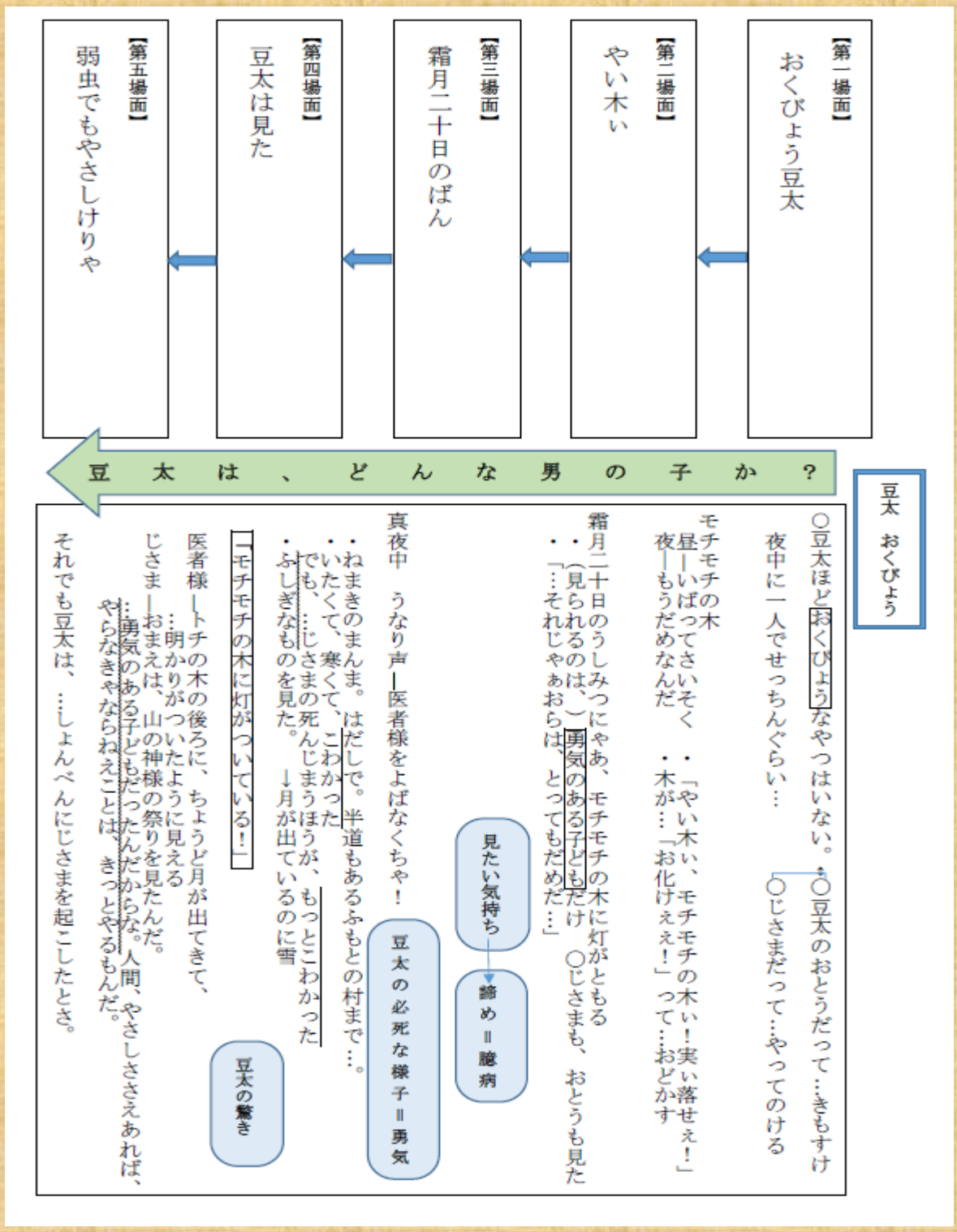
学習の系統性（【読むこと】指導事項イ・エ・オ・カ）※小学校学習指導要領解説（国語編 P. 38）

学年	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
教材	スイミー	お手紙	モチモチの木	ごんぎつね	注文の多い料理店	風切るつばさ
めあて	お話の好きなところを見付ける。	自分と比べて読む。	人物の性格を想像する。	人物どうしの関わりを考える。	人物像や全体像を想像する。	人物の関係と心情の変化を捉える。
構造と内容の把握	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。		登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。		登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	
精査・解釈	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。		登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。		人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	
考えの形成	文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。		文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。		文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	
共有	文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。		文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。		文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	

第3学年　想ぞうしたことをつたえ合おう
「モチモチの木」

ホームへ

教材「モチモチの木」構成図



第3学年　想ぞうしたことをつたえ合おう「モチモチの木」

ホームへ

系統的な指導の手だて

ポイント①　学習課題の適切な設定・提示

【単元目標に即した課題の提示をし、課題を自分で選ぶための工夫】

学習課題の適切な設定

・初発の感想は、「心に残ったこと」や「豆太について考えたこと」を書かせ、登場人物の気持ちの変化や性格に着目して物語を読む問い（読みの問い）を立てられるようにする。
・登場人物の人物像について考える際には、「なぜ、〇〇は〇〇なのだろうか。」や「〇〇とき、〇〇したのはどうしてだろうか。」というような探究的な問いを促すための視点を提示する。

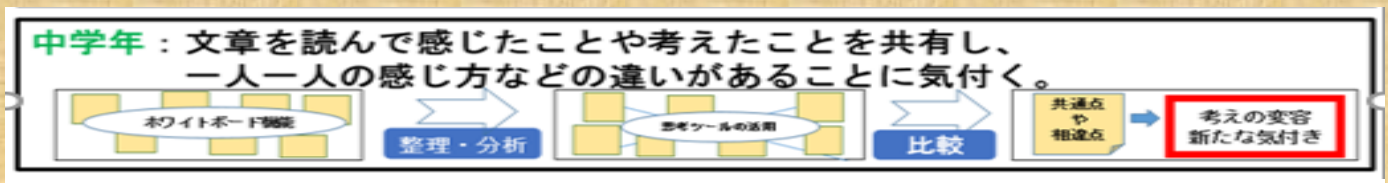
【学習課題の提示】

・自分で選んだ課題は、個人端末やワークシートに記し、常に確認できるようにする。

ポイント②　対話が必然となる学習過程の工夫

【A：探究的な課題の設定】
「なぜ、〇〇なのか？」「〇〇したのは、どうしてか？」などの課題を設定する。
【B：学習計画作り】
場面ごとに読み進めるのではなく、課題に沿って、学習過程を行ったり来たりできる学習を行う。
【C：多様な情報収集方法】
本を読んだり、友達の考えを聞いたりして、課題の解決を目指す。
【D：他者との対話場面の設定】
他者の読み取りに関心を向け、対話を生み出す学習活動を設定する。
【E：多様な共有方法】
比較機能やキーワード検索を行ったりして、共有方法を変化させる。

ポイント③　考えを広げ深めるＩＣＴ活用



【考えを広げ深めるためのＩＣＴ活用の工夫】

発問の工夫

・協働学習ツールを活用して考えの共有を行う際には、自分の考えと似ている考えや異なる考えを整理・分析するように指導し、自分の考えと比較できるような発問をする。

ワークシートの工夫

・全体の考えを整理・分析のする際には、思考シールを活用し、自分の考えと似ている考えや異なる考えを分類できるようにする。
・共有した友達の考えを、自分の考えに取り入れたことが把握できるようにするために、学習の振り返りの時間に新たな気付きについてまとめられるようにする。

第3学年　想ぞうしたことをつたえ合おう
「モチモチの木」

ホームへ

指導計画・評価計画（例）
全11時間

時間	ねらい	○主な学習活動	□手立て 課…学習課題の適切な提示・設定 対…対話が必然となる単元計画の要素 ＩＣＴ…ＩＣＴの活用	評価方法 【評価規準】
1 2 第一次【つかむ】	1　学習の見通しをもつ。 2（指導例１） 学習課題を理解する。	○既習の教材文の中心人物を想起させ、どのような人物だったか交流する。 ○「モチモチの木」を読み、初発の感想を交流しながら、学習課題を確かめる。	対　人物の性格を捉えることを意識させ、性格に関する語彙を広げられるように交流する。 ＩＣＴ　初発の感想を交流する際に、心に残ったことや豆太について考えたことを色分けして交流できるようにする。 課　教材文の最初と最後を比較し、豆太の性格の変容について話し合う。	【主】 発言 行動観察 ワークシート
	【学習課題】豆太は、どのような人物なのだろうか。			
3 4 5 6 7 8 9 第二次【取り組む】	3　１場面の豆太の性格を具体的に想像する。 4　２場面の豆太の性格を具体的に想像する。 5　３場面の豆太の性格を具体的に想像する。 6（指導例２） ４場面の豆太の性格を具体的に想像する。 7・8 ５場面の豆太の性格を具体的に想像する。 9（指導例３） 物語を読んで、豆太の性格についての自分の考えをまとめる。	○「おくびょう豆太カード」を作り、豆太のどんなところが臆病なのかを読み取る。 ○「昼豆太・夜豆太カード」を作り、豆太の人物像について話し合う。 ○「あきらめ豆太カード」を作り、豆太の人物像について話し合う。 ○「助けた豆太カード」を作り、豆太の気持ちを考え、豆太の人物像について話し合う。 ○「せい長豆太カード」を作り、豆太の人物像について話し合う。 ○これまで作ったカードを見比べながら、豆太の性格について人物カードにまとめる。	対　「教材との対話」「自己との対話」「他者との対話」を機能・連携させる。 課　場面ごとに豆太の性格を考える際には、探究的な問いになる視点を示し、児童から課題を見いだし、選択しながら読み進められるようにする。 ＩＣＴ　「豆太カード」を作成する際には、①白紙カード②吹き出しカード③叙述入りカードから個に応じて選べるようにし、考えをカードにまとめ、自信をもって考えを交流し、考えを深めていけるようにする。	【知・技】 ・(1)オ 行動観察 ワークシート 【思・判・表】 ・C(1)エ ワークシート ・C(1)オ 行動観察 ワークシート 【主】 発言 行動観察 ワークシート
10 11 第三次【振り返る】	10　豆太は、物語の最初と最後で変わったか考える。 11　豆太の人物像について考えたことを、学級全体で共有する。	○場面ごとにカードを並べ、豆太の心情をグラフに表し、変容について話し合う。 ○人物カードを共有し、他の物語の人物の性格を想像するときにも役立つことを確かめる。	課　豆太は、最初と最後で変わったかという問いを、心情メーターに表しながら整理していく。 ＩＣＴ　共有後、一人一人の感じ方などの違いに気付けるようなデジタルワークシートにする。	【主】 発言 行動観察 ワークシート

第3学年　想ぞうしたことをつたえ合おう
「モチモチの木」

ホームへ

全11時間
2/11時間目（指導例1）

〈本時の目標〉
物語を読んで感想をもち、学習課題を理解して、考えを伝え合うことができる。

課題設定
・課題を明確にする。

学習過程①
構造と内容の理解
・既習の振り返りをする。
・初発の感想を共有する。

学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・性格に着目する。

学習過程③
考えの形成
・登場人物の変容を捉える。
・自己の問いをもつ。

学習過程④
共有
・問いを確認する。
・自分と友達の考えを比べる。

振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

単元目標に即した課題を自分で選ぶ

課題
豆太は、どのような人物なのだろうか。

評価規準【主】
物語を読んで感想をもち、学習課題を理解して、考えを伝え合おうとしている。
（発言・行動観察・ワークシート）

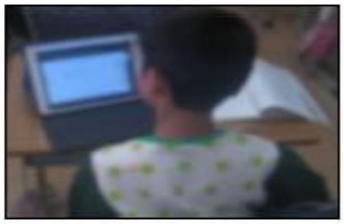
問いを見いだす 問い直す

集まった情報を整理・分析

自己の考えをまとめる

自己の考えを広げ深める

手だて課（探究的な課題設定）
教材文の最初と最後を比較し、豆太の変容を捉え、人物像についての探究的な課題を設定する。



手だて図（多様な情報収集）
既習の教材、本教材、友達の考えを集めながら、「読みの問い」を考える。

手だてICT（多様な共有方法）
心に残ったことや豆太について考えたことを、付箋で色分けしながら交流する。

第3学年「想ぞうしたことをつたえ合おう」（モチモチの木）

ホームへ

全11時間
6/11時間目（指導例2）

〈本時の目標〉
豆太の気持ちを具体的に想像し、豆太の人物像をまとめることができる。

課題設定
・課題を明確にする。

学習過程①
構造と内容の理解
・場面の確認をする。
・気持ちの変化を読み取る。

学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・性格に着目する。

学習過程③
考えの形成
・登場人物の気持ちを考える。
・自己の考えをもつ。

学習過程④
共有
・考えを共有する。
・自分と友達の考えを比べる。

振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

単元目標に即した課題を自分で選ぶ

課題
じさまを助けたときの豆太は、どのような気持ちだったのだろうか？

評価規準【思・判・表】C(1)エ
じさまを助けた豆太の気持ちを具体的に想像し、豆太の人物像をまとめている。
（発言・ワークシート）

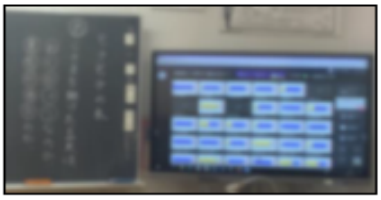
問いを見いだす 問い直す

集まった情報を整理・分析

自己の考えをまとめる

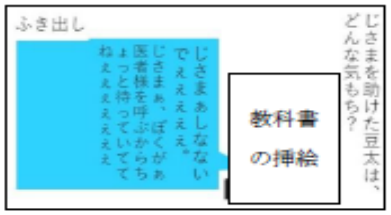
自己の考えを広げ深める

手だて【課】（探究的な課題設定）
場面ごとに読み進めていく際には、児童から課題を見いだし、選択しながら読み進められるようにする。



手だて【対】（他者との対話場面）
「教材との対話」「自己との対話」「他者との対話」を機能・連携させる。

手だて【ICT】（多様な共有方法）
人物像をまとめる際には、①白紙②吹き出し③叙述入りのカードを選べるようにする。



第3学年　想ぞうしたことをつたえ合おう
「モチモチの木」

ホームへ

全11時間
9/11時間目（指導例3）

〈本時の目標〉
物語を読んで豆太について理解したことを基に、考えをまとめることができる。

課題設定
・課題を明確にする。

単元目標に即した課題を自分で選ぶ

課題
豆太は、どのような人物なのだろうか。

手だて①（探究的な課題設定）
各出来事の課題を振り返りながら、登場人物の人物像を捉えられるような課題を設定する。

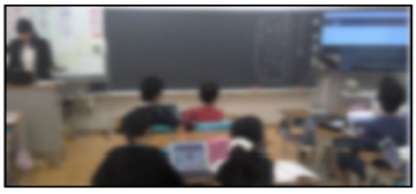
学習過程①
構造と内容の理解
・場面の確認をする。
・登場人物の人物像を読み取る。

評価規準【思・判・表】C(1)オ
物語を読んで豆太の性格について理解したことを基に、考えをまとめている。
（発言・ワークシート）

学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・性格に着目する。

問いを見いだす 問い直す

手だて②（他者との対話場面）
これまで捉えた豆太の人物像を共有し、豆太の性格に着目した対話ができるようにする。



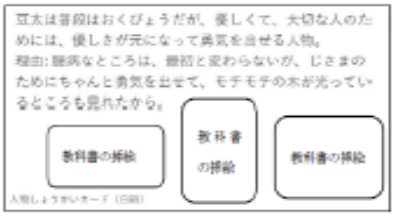
学習過程③
考えの形成
・登場人物の人物像を考える。
・自己の考えをもつ。

集まった情報を整理・分析

手だてICT（多様な共有方法）
一人一人の感じ方などの違いに気付けるようなデジタルワークシートにする。

学習過程④
共有
・考えを共有する。
・自分と友達の考えを比べる。

自己の考えをまとめる



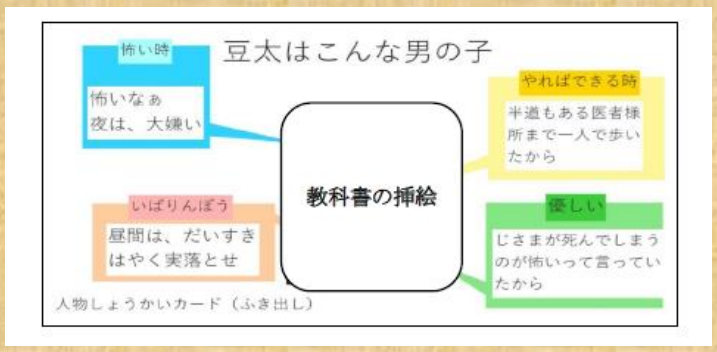
振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

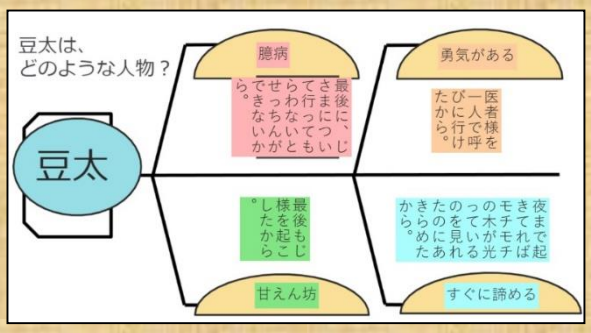
自己の考えを広げ深める

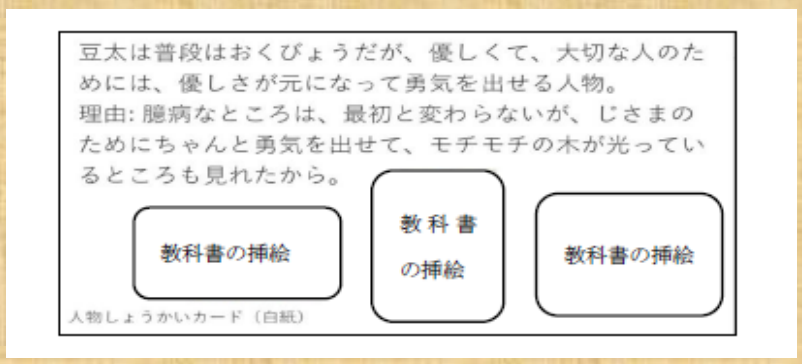
第3学年　想ぞうしたことをつたえ合おう
「モチモチの木」

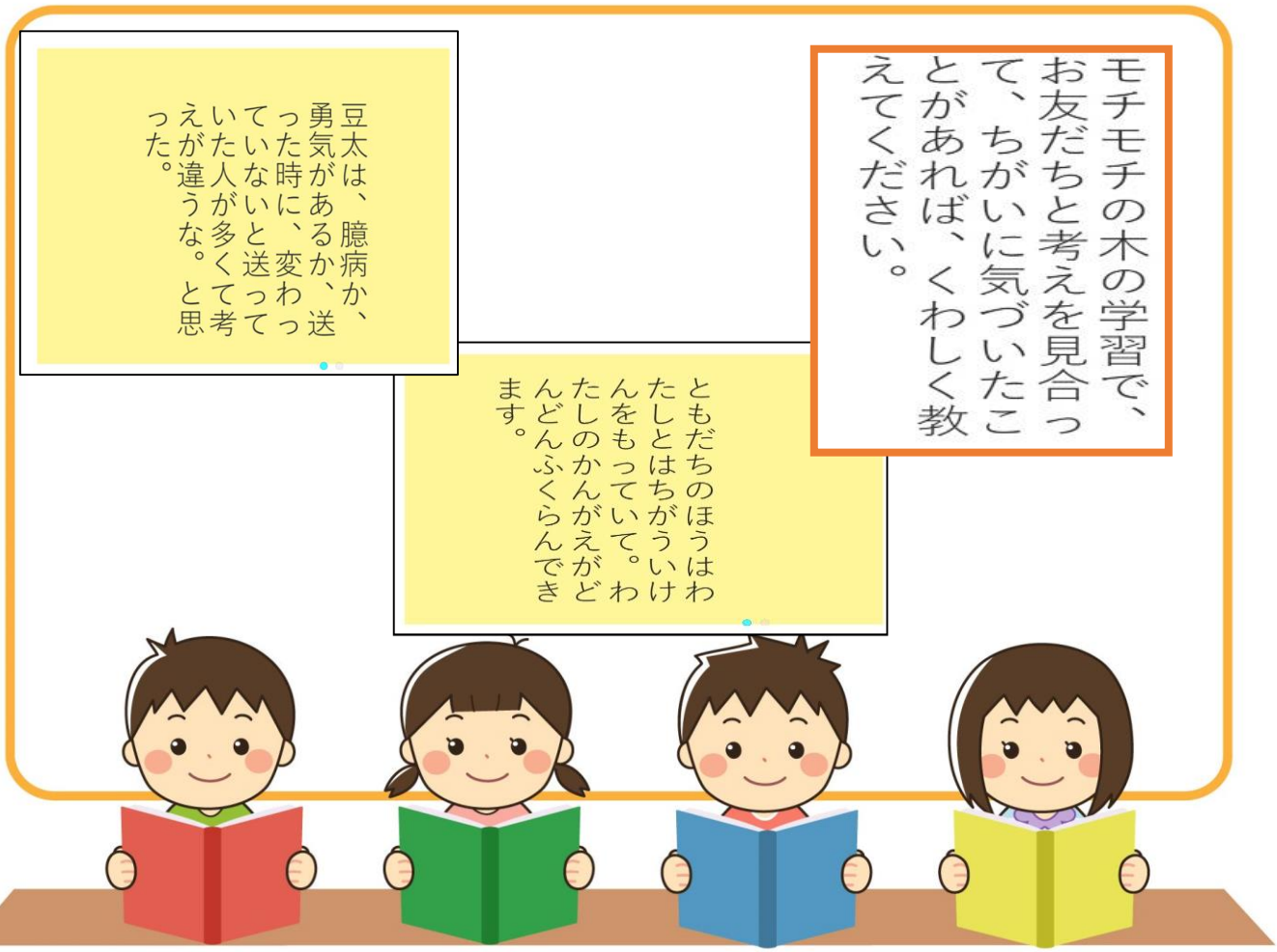
ホームへ

児童の姿









第5学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

ホームへ

単元目標

人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりして、見付けたおもしろさを解釈する。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気が付いている。 イ：言葉の特徴やきまりに関する事項 【(1)ク】	①「読むこと」において、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 【C(1)エ】 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 【C(1)オ】	①これまで学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、進んで表現の工夫を見付け、物語のおもしろさを解釈しようとしている。

学習の系統性

学習の系統性（【読むこと】指導事項イ・エ・オ・カ）※小学校学習指導要領解説（国語編 P. 38）

学年	第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年
教材	スイミー	お手紙	モチモチの木	ごんぎつね	注文の多い料理店	風切るつばさ
めあて	お話の好きなところを見付ける。	自分と比べて読む。	人物の性格を想像する。	人物どうしの関わりを考える。	人物像や全体像を想像する。	人物の関係と心情の変化を捉える。
構造と内容の把握	場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。		登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えること。		登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。	
精査・解釈	場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。		登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。		人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。	
考えの形成	文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。		文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。		文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。	
共有	文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。		文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。		文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること。	

第5学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

ホームへ

教材「注文の多い料理店」構成図

現実

【第一場面】
山奥で道に迷う二人の紳士。

不思議な世界

【第二場面】
西洋料理店「山猫軒」を見付けて喜ぶ二人。

【第三場面】
料理店から多くの注文を、都合のいいように解釈する二人。

【第四場面】
様子がおかしいことに気付き、逃げ出そうとする二人。

【第五場面】
戸の内側の会話を聞いて、泣くこと以外何もできない二人。

現実

【第六場面】
助かるが、くしゃくしゃになった顔はもとになおらない二人。

風がどうとふいてきて、・・・。

●着目させたい表現
- すっかりイギリスの兵隊の形をして…
- 何でもかまわないから…／二千八百円の損害だ。
- …山鳥を十円も…／…結局おんなじこった。

〈西洋料理店　山猫軒〉
- 「…。ここはこれでなかなか開けてるんだ。…。」
- 「もちろんできるさ。…。」
- 「なかなかはやってるんだ。」
- 「…よほどえらい人が、終始来ているんだ。」
- 「…下女がかぜでもひいてまちがえて…。」
- 「どうもおかしいぜ。」
- 「注文というのは、向こうがこっちへ…。」
- 「その、ぼ、ぼくらが、…うわあ。」
- がたがたがたがたふるえだして…。
- おおきなかぎあな／二つの青い目玉
- …ぶるぶるふるえ、声もなく泣きました。
- …泣いて泣いて泣いて泣きました。

風がどうとふいてきて、・・・。
- 「おうい、おうい、ここだぞ、早く来い。」
- とちゅうで十円だけ山鳥を買って…。

紙くずのようになった二人の顔だけは、…元のとおりになおりませんでした。

●紳士の人柄や様子
- ○場違いな服装
- ○えらそうな感じ
- ○動物の命をなんとも思っていない。
- ○物事を金銭面から捉えている。
- ○自分の都合のいいように物事を解釈する。
- ○知ったかぶりをする。
- ○深く物事を考えない。
- ○格好をつけている。
- ○見栄っ張り
- ○言葉の本当の意味に気付き、恐怖のどん底に陥る。
- ○恐怖のあまり、泣くことしかできない。
- ○少しも懲りていない。
- ○元のえらそうな感じに戻る。

第5学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

ホームへ

系統的な指導の手だて

ポイント①　学習課題の適切な設定・提示

【多面的な見方・考え方を働かせ、課題を自分で設定させるための工夫】

学習課題の適切な設定

・初発の感想は、「物語への疑問」や「物語のおもしろさ」を書かせ、人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして読む問い（読みの問い）を立てられるようにする。
・物語をおもしろくしている表現を考える際には、「なぜ、○○なのだろうか。」や「○○なのは、どうしてだろうか。」というような探究的な問いを促すたまの視点を提示する。

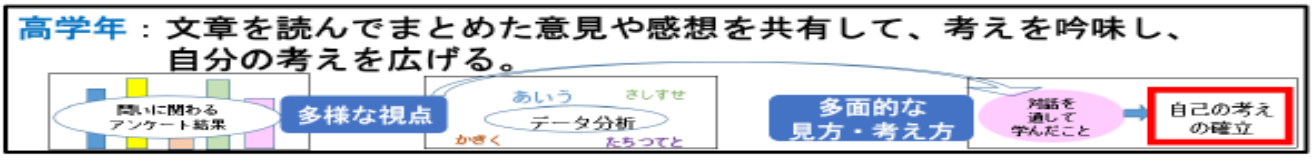
学習課題の提示

・自分で設定した課題は、個人端末やワークシートに記し、常に確認できるようにする。

ポイント②　対話が必然となる学習過程の工夫

【A：探究的な課題の設定】
「なぜ、○○なのか？」「○○したのは、どうしてか？」などの課題を設定する。
【B：学習計画作り】
場面ごとに読み進めるのではなく、課題に沿って、学習過程を行ったり来たりできる学習を行う。
【C：多様な情報収集方法】
本を読んだり、友達の考えを聞いたりして、課題の解決を目指す。
【D：他者との対話場面の設定】
他者の読み取りに関心を向け、対話を生み出す学習活動を設定する。
【E：多様な共有方法】
比較機能やキーワード検索を行ったりして、共有方法を変化させる。

ポイント③　考えを広げ深めるＩＣＴ活用



【考えを広げ深めるためのＩＣＴ活用の工夫】

発問の工夫

・アンケート結果やテキストマイニング等を活用して、考えの共有を行う際には、自分の考えと似ている考えや異なる考えがないかを多面的に捉えられるように指導し、対話を通して学んだことをまとめられるような発問をする。

ワークシートの工夫

・全体の考えを多様な視点で捉え、多面的な見方・考え方を働かせて、思考した形跡が分かるようにする。
・共有した友達の考えを、自分の考えに取り入れたことが把握できるようにするために、学習の振り返りの時間に、考えを吟味し、自己の考えを確立できるようにする。

第5学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

ホームへ

指導計画・評価計画（例）
全8時間

時間	ねらい	○主な学習活動	□手だて 課…学習課題の適切な提示・設定 対…対話が必然となる単元計画の要素 ＩＣＴ…ＩＣＴの利活用	評価方法 【評価規準】
1 第一次【つかむ】	1　（指導例１） 学習の見通しをもち、学習課題を明確にする。	○これまでの物語の学習を振り返り、どんな言葉や表現が印象に残っているかを想起し、学習の見通しを立てる。 ○「注文の多い料理店」を読み、初発の感想を交流しながら、「物語のおもしろさを解説する文章を書く」という学習内容を確かめる。	対　学習経験や読書経験を想起する際には、工夫された表現や仕掛けに着目することや印象に残っている表現について対話することが大切ということを確認する。 課　物語に対する疑問を整理し、物語のおもしろさを確かめながら、課題の設定・提示を行う。	【主】 発言 行動観察 ワークシート
	【学習課題】山猫軒での二人の紳士の出来事を、おもしろくしているのは何か。			
2 3 4 5 6 7 第二次【取り組む】	2　物語の出来事の流れを理解する。 3　２場面の出来事について、具体的に想像する。 4　３場面の出来事について、具体的に想像する。 5　（指導例２） ４場面の出来事について、具体的に想像する。 6　５・６場面の出来事について、具体的に想像する。 7　（指導例３） まとめた考えを基に、物語をおもしろくしている表現の工夫を見付ける。	○クイズ形式で、出来事や現実世界と不思議な世界を行き来する構成を確かめる。 ○「紳士が山猫軒に入った理由」について、対話を通して、考えをまとめる。 ○「扉から読み取れること」について、対話を通して、考えをまとめる。 ○「山猫は、二人の紳士を食べるつもりだったのか」について、対話を通して、考えをまとめる。 ○「紳士はなぜ選ばれたのか」について、対話を通して、考えをまとめる。 ○物語をおもしろくしている表現や効果を探し、物語の表現の工夫を解説する「おもしろさの秘密カード」を作成する。	対　国語科の見方・考え方を働かせながら、知的な深まりを感じることができるように、テーマを決めて、対立型で対話ができるように場の設定を行う。 課　場面ごとに出来事を考える際には、探究的な問いを児童が設定できるようにする。 ＩＣＴ　出来事を考える際には、物語の全体像を捉えられるデジタル教材を用意する。また、サイドラインや付箋を貼っておもしろいポイントにメモを残せるようにする。	【知・技】 ・(1)ク 行動観察 ワークシート 【思・判・表】 ・C(1)エ ワークシート ・C(1)オ 行動観察 ワークシート 【主】 発言 行動観察 ワークシート
8 第三次【振り返る】	8　物語の構成を捉えて、物語の表現の工夫を解説する文章を書くことができたか、書いたものを読み合い、振り返る。	○「おもしろさの秘密カード」に書いたことは、叙述に基づいているかを再度確かめる。 ○書いたカードを読み合って、感想を共有する。	課　おもしろくしている表現の工夫を伝えたいという意欲をもたせる。 ＩＣＴ　共有することで、表現の工夫についての理解を広げ深められるようにする。	【主】 発言 行動観察 ワークシート

第5学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

ホームへ

全11時間
1/8時間目（指導例1）

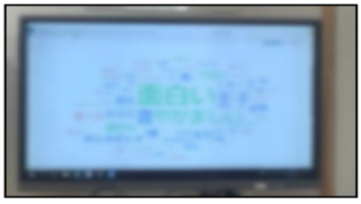
〈本時の目標〉
これまでの物語の学習を振り返り、学習課題を明確にすることができる。

課題設定
・課題を明確にする。

課題を自分で設定する

手だて課（探究的な課題設定）
工夫されている表現や仕掛けに着目し、物語のおもしろさを確かめながら、課題を設定する。

課題
物語文の学習で印象に残っている言葉や表現には、どのような仕掛けがあったのだろうか？



学習過程①
構造と内容の理解
・既習の振り返りをする。
・初発の感想を共有する。

学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・表現に着目する。

評価規準【主】
これまでの物語の学習を振り返り、学習課題を明確にしようとしている。
（発言・行動観察・ワークシート）

手だて対（多様な情報収集）
既習の教材、本教材、友達の考えから、物語をおもしろくしている仕掛けについて考える。

学習過程③
考えの形成
・既習とのつながりを理解する。
・学習計画を立てる。

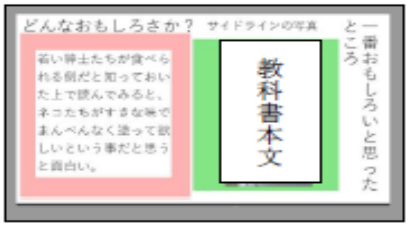
問いを見いだす 問い直す

集まった情報を整理・分析

学習過程④
共有
・考えを共有する。
・他者の考えを参考し、自己の考えに生かす。

手だてICT（多様な共有方法）
考えを収集したり、分析したりして、物語をおもしろくしている仕掛けについてまとめる。

自己の考えをまとめる



振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

自己の考えを広げ深める

第5学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

ホームへ

全11時間
5/8時間目（指導例2）

〈本時の目標〉
「山猫が紳士を食べようとする場面」を読み、自分の考えをまとめることができる。

課題設定
・課題を明確にする。

課題を自分で設定する

手だて㋑（探究的な課題設定）
物語をおもしろくしている言葉や表現に着目できるように、探究的な課題を設定する。

学習過程①
構造と内容の理解
・場面の確認をする。
・おもしろさの秘密を読み取る。

課題
料理店の山猫は、二人の紳士たちを食べるつもりだったのだろうか。

学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・表現に着目する。

評価規準【思・判・表】C(1)オ
4場面を読み、想像して理解したことを基に、自分の考えをまとめている。
（発言・ワークシート）

手だて㋺（他者との対話場面）
国語科の見方・考え方を働かせ、知的な深まりを感じられるように対話型の対話をする。

問いを見いだす問い直す

学習過程③
考えの形成
・物語をおもしろくしている秘密をまとめる。

集まった情報を整理・分析

学習過程④
共有
・考えを共有する。
・他者の考えを参考し、自己の考えに生かす。

自己の考えをまとめる

手だてICT（多様な共有方法）
物語の全体像を振り返りながら、対話ができるようにデジタルワークシートを活用する。

振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

自己の考えを広げ深める

第5学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

ホームへ

全11時間
7/8時間目（指導例3）

〈本時の目標〉
まとめた考えを基に、物語をおもしろくしている表現や効果を見付けることができる。

課題設定
・課題を明確にする。

課題を自分で設定する

手だて課（探究的な課題設定）
物語をおもしろくしている言葉や表現に着目できるように、探究的な課題を設定する。

学習過程①
構造と内容の理解
・場面の確認をする。
・おもしろさの秘密を読み取る。

課題
物語をおもしろくしている表現や効果は、どんなものがあるのだろうか。

学習過程②
精査・解釈
・叙述を見返す。
・表現に着目する。

評価規準【思・判・表】C(1)エ
まとめた考えを基に、物語をおもしろくしている表現や効果を見付けている。
（発言・ワークシート）

手だて対（多様な情報収集）
多角的・多面的に情報収集し、表現の工夫についての理解を、広げ深められるようにする。

学習過程③
考えの形成
・物語をおもしろくしている秘密について、自己の考えをもつ。

問いを見いだす問い直す

集まった情報を整理・分析

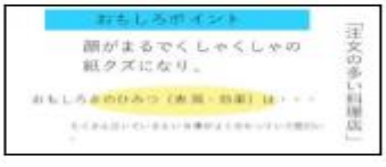
学習過程④
共有
・考えを共有する。
・他者の考えを参考にし、自己の考えに生かす。

自己の考えをまとめる

手だてICT（多様な共有方法）
教材にサイドラインをひいたり、付箋を貼ったりして、メモを残したのを共有する。

振り返り
・今日学んだこと。
・次に考えたいこと。

自己の考えを広げ深める



第5学年　物語のおもしろさを解説しよう
「注文の多い料理店」

ホームへ

児童の姿

山猫が紳士を食べようとしているところのおもしろさは？

教科書の挿絵

ふき出し

たくさんの注文は自分が注文しているのではなく相手が自分に注文しているところが面白かったです

一番おもしろいと思ったところ

教科書の本文

どんなおもしろさか？　サイドラインの写真

若い紳士たちが食べられる側だと知っておいた上で読んでみると、ネコたちがすきな味でまんべんなく塗って欲しいという事だと思うと面白い。

「注文の多い料理店」のおもしろさは・・・

いろいろなおかしくて不思議な注文をされているのに、全く疑わなくて、騙されているところだと思います。

おもしろくしている☆ひみつ☆は・・・

普通だったら誰もやらないような注文をしていて、それでも受け入れている紳士たちがいることだと思います。

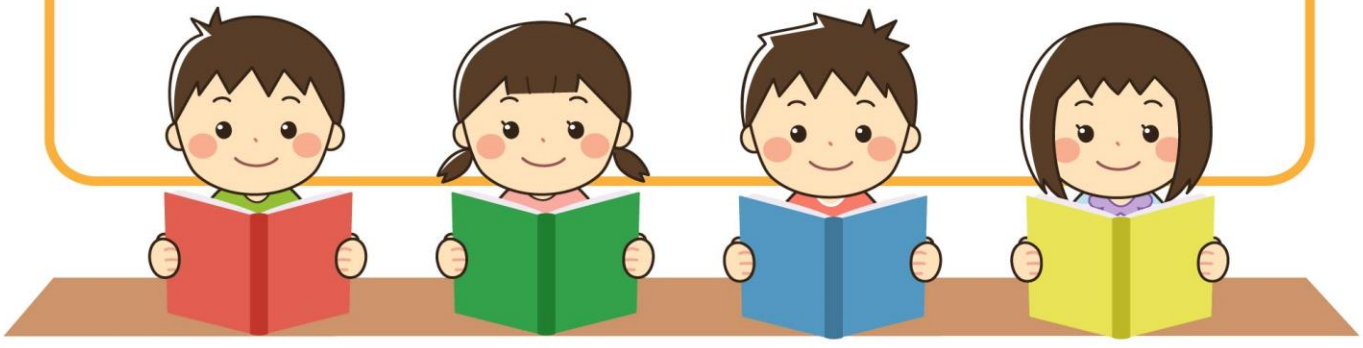
あと、いろいろなドアのデザインがあることもおもしろくしている秘密だと思います。

注文の多い料理店の学習で、すすんでできたことは、どんなことですか？

おもしろさを小さいヒントから掘り下げて面白さを見つけることができました。

「注文の多い料理店」の学習で、自分の考えをまとめるときに友達の考えを参考にしたことがあれば、くわしくおしえてください。

私は、最後の扉の奥で話していた山猫たちの会話が面白かったのですが、友達の意見の中に、最後の扉に書かれた、「さぁさぁおなかにお入り下さい」のところも、お腹とお中をかけていて面白かったです。という意見があり、私もそれを面白いと思いました。



発達の段階を考慮した ICTの活用方法

ホームへ

低学年

協働学習ツール（心メーター）

比較機能を使って、同じ考えや違う考えを比較する。

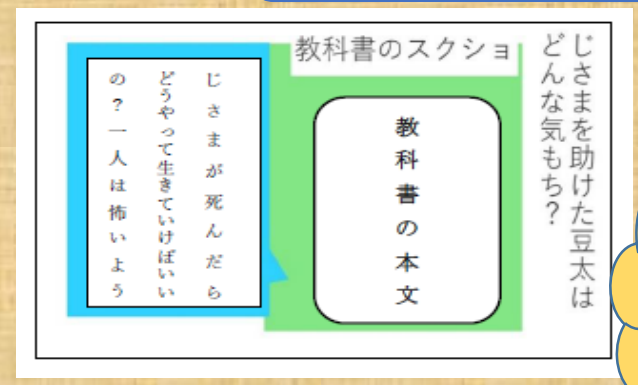
考えを共有した後、学習の振り返りで、友達の考えを選び、「感じたことや分かったこと」をまとめる。

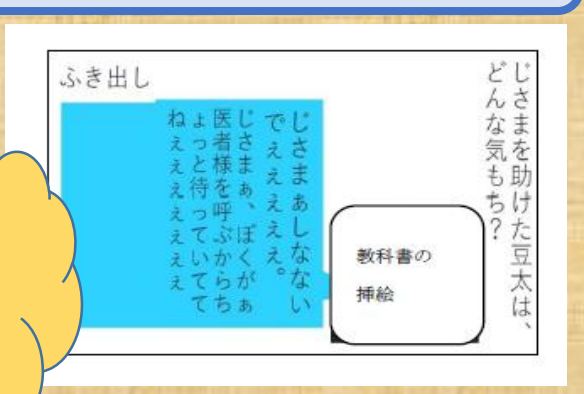
発達の段階を考慮したICTの活用方法

ホームへ

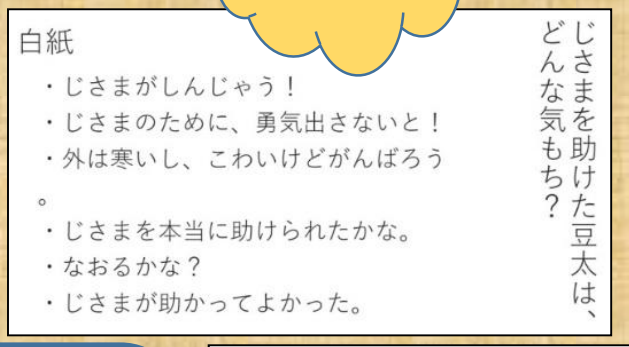
中学年

「個別最適な学び」
（教科書からの抜粋、吹き出し、白紙から選択）

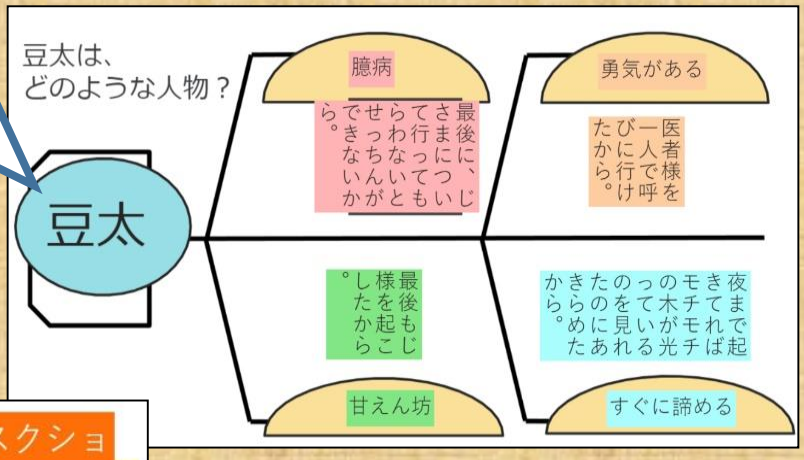


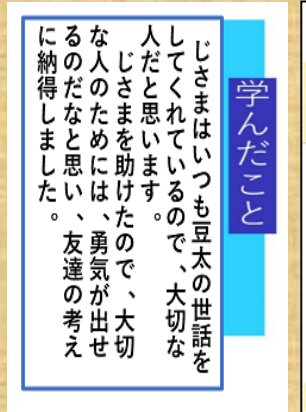


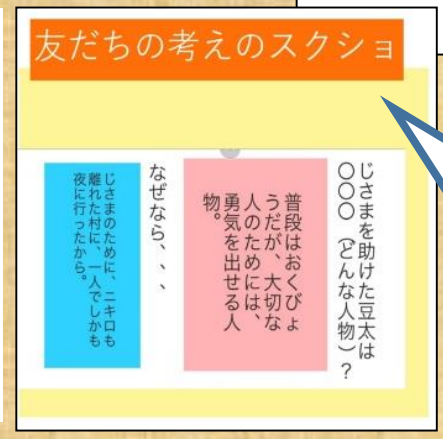
共有



共有した考えを基に、<u>思考ツール</u>で考えを整理・分析する。







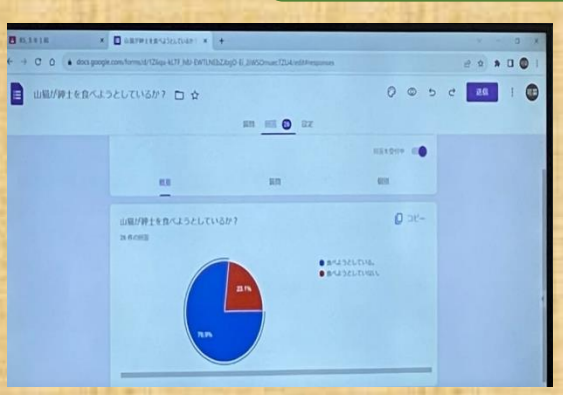
一人一人の感じ方の違いに気付き、<u>新たな気付き</u>について、考えをまとめる。

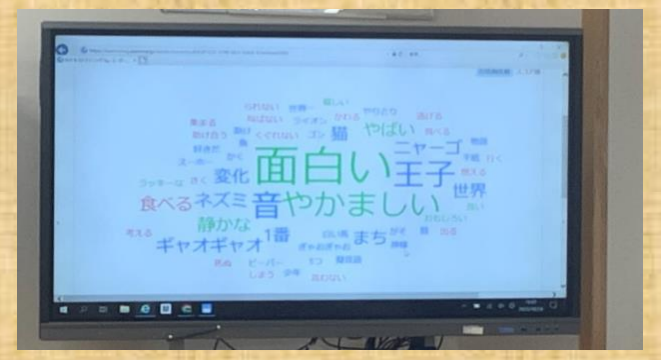
発達の段階を考慮したICTの活用方法

ホームへ

高学年

アンケートやデータ分析の活用

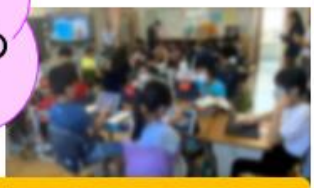




第５学年

「個別最適な学び」に**還元**

「協働的な学び」の**成果**



考えを吟味する

意見や感想を共有する

多様な視点

（おもしろさをつたえるカード）白紙バージョン

いろいろな注文に理由をつけて、納得してしまうところ。

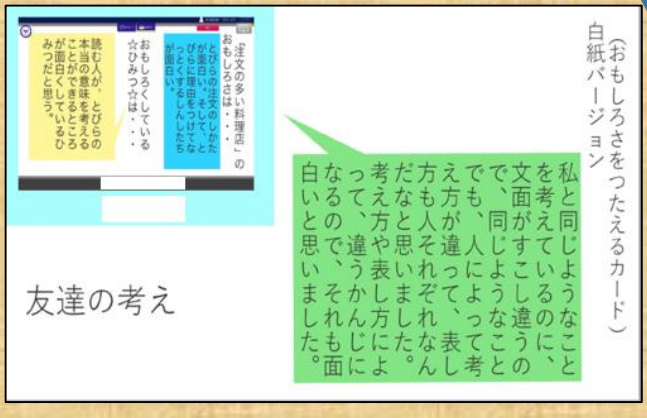
紳士が食べたのはほんとにクリームなのか？

クリームを塗ると言う明らかにおかしい注文に理由をつけて納得してしまうところが面白い。

多面的な見方・考え方

猫が言ってた親分はどんな猫？

最後の最後に気づく。ようやく



意見や感想を共有した後、<u>考えを吟味</u>し、自己の考えを広げ深める。

関連資料・参考文献等

ホームへ

＜関連資料＞
・「東京都教職員研修センター　研究・研修アーカイブス」の
Webページの中から本研究の報告書を御参照ください。
（下記のページから【教員研究生の報告書】→【令和5年度研究報告書、成果物】）
https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/

＜参考文献・引用元＞　※外部データにアクセスします。御注意ください。

・小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編
（文部科学省　平成29年7月）
https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf

・学習指導要領の趣旨の実現に向けた
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料
（文部科学省初等中等教育局教育課程課　令和3年3月）
https://www.mext.go.jp/content/20210428-mxt_kyoiku01-00014639_13.pdf

・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して
～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～
（文部科学省中央教育審議会　令和3年1月）
https://www.mext.go.jp/content/20210126-mxt_syoto02-000012321_2-4.pdf

・主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について
（国立教育政策研究所　令和2年6月）
https://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf_seika/r02/r020603-01.pdf

国語科「読むこと」における
深い学びへと導く授業モデル　パンフレット

令和6年3月

東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課
葛飾区立東金町小学校　主幹教諭　堀口　麻衣